

# サムライ・ミショナリー

今村 亮

一粒の麦もし地に落ちて死なずば、ただ一つにてあるべし。死ねば多くの麦を作るべし。(ヨハネ福音書12章24節)

サムライ・ミショナリー、こと、曾我部四郎牧師(1865-1949)のことを知ったのは日本への帰国を前にした90年代、かれこれ20年前のことである。娘の勤める加州大学サンタバーバラ校(UCSB)の図書館、日系関係の図書室を探してとりあげた同名の本で、著者はハワイの医師兼牧師の中野次郎氏、発行は1985年とあった。驚いたのは、私の生まれ故郷、愛媛県今治市が冒頭から登場したことだ。これはこれはと今治の部分をコピーして内地発送の荷物に入れて持帰った。

曾我部牧師は同志社大神学部を卒業した1894年、ハワイのキリスト教伝道会の求人に応募し採用されて29歳で渡米した。任地はハワイ島ヒロの北方20キロのホノム。中国人、比国人に加え砂糖黍大プランテーションに大勢の日本人移民が大挙して入植したところで、かならず遭遇する生活設営、帯同家族、子弟問題など、雇傭者との間に入って側面から援護し、現地に円滑に融け込ませねばならない。当時ハワイは、まだ米国に併合される前だが、貧困、人種差別の壁は厳しく、曾我部牧師は、よく、その試練に耐えた。著者中村氏は曾我部牧師の持つ容貌、内なる胆力、即ち、サムライ魂がこれらの試練を克服凌駕したと絶賛する。程なく、曾我部牧師は、同志社大で看護を修業するシカ女に求婚、めでたく結婚し夫婦して救済にあたる。シカは母親役として貢献した。

今治市は、この曾我部牧師と、のちに一世風靡した「不如帰」を書いた徳富蘆花の交友の地として登場する。18才の蘆花は生地熊本で洗礼を受けた後、四国最初の教会、今治教会牧師で、甥の横井時男を頼ってやってくる。時男は明治政府に招喚後、京都で暴徒に暗殺された儒学者、横井小楠の長男である。蘆花より3才上の曾我部は横井牧師に受洗、既に説教経験あり、雄弁且つ行動派、頬骨高く、顔は桃の色艶の描写があり、私はこれぞ著者が選んだ題名にびたりと照合すると確信した。また賛美歌では教会一と人気があり、「高野」(コウヤ)が四郎のあだ名であった。

曾我部、徳富にう一人、林を加えた今治教会の3人組(近隣では3奇人と噂された)は、連れだって説教して廻った。タオルの下町はもちろん、貧しい漁村までも遠出した。往々、期待外れで失望して帰宅することの方が多かった。3人は廃校となった学校の2階に寝泊まりしていた。大テーブルを運び込み、天井から吊りした蚊帳の中で寝た。教会の3食では満たされず、身周り品の数々を質屋に持ち込んで間食した。果物、特に西瓜がお気に入り、また駄菓子など。ある夜、牛肉を買い込み、料理しすべて平らげて熟睡した。翌朝、蘆花が眼を覚ますと四郎の姿がなく、その日一日帰宅せず翌翌日、帰ってきて、近見山山頂で、一日断食、瞑想と祈禱を行ったと言う。まさに「高野」のあだ名の示すとおりである。今治の子供時代、私は、自宅のバックヤードよろしく現近見山(244m)公園にはよく登ったものだ。

四郎の人柄を見込んだ蘆花は、兄の蘇峰が開校した熊本の大江義塾にせひ入れとすすめ、絹製の着物を質に入れて四郎の旅費まで用意した。四郎は松山経由で佐田岬まで歩き漁船で九州に渡海、さらに熊本まで歩き通した。

このような今治の詳細を読んで、著者中村氏は、どこから情報を仕入れのだろうと疑問を持った。曾我部牧師は、清廉潔白な人柄で、名も名誉も欲せず、書いたものは全て破棄されたい旨の遺書を残したとあったので、すべて徳富蘆花の作品からだと一人推定した。帰国後、インターネットで調べると、曾我部四郎については「福岡県人、土州、長曾我部家から」とあるのみであった。私は、また、機会あるごと、蘆花の作品を読んで探した。「思い出の記」「黒い眼と茶色の眼」「死の陰に」、遺作となった「富士」などである。しかし、それらしい作品はなかった。今夏、思い立ってグーグルを探してみた。なんと国会図書館が2002年、Eブックとして公開した曾我部四郎著「3000ドル

要」の本が見つかった。100ページたらずの本で日本語で書かれ東京で印刷されていた。

出版の趣旨として、曾我部牧師は「ハワイホノムに亡き妻シカを記念した教会と、熊本 大江義塾を範とするホノム義塾を作る準備を重ね、各位のご協力を得て、6000ドルを集め得たが、なお3000ドル不足する。さらなるご協力を得るため、拳金運動のためこの本を書く」とあり、続いて徳富蘆花の序文があった。この蘆花序文がまさに、私が長年探した蘆花の「四郎の思い出の記」であり、中野牧師の種本であった。蘆花は「今治で貴兄のため質屋に全財産をつぎ込んだようなことができないで残念だ。

貴兄と奥さんが2人共同で行った愛情と善行は、必ずや報いられよう。1500人の日系移民子弟を育てたお二人に最大の敬意を表す。また大江義塾の姉妹塾をハワイに作られることに声援を送る。」と書いている。本文は「ハワイ生まれの青年男女に与う」を含む、曾我部牧師の説教文からなる。

現在、ホノムの曾我部教会は、ヒロ ユナイテッド チャーチ オブ クライストと改名されている。教会近くのメラニ墓地に曾我部牧師夫妻のお墓がある。日系アメリカ人のお墓の多くは、マウナケアに向かっているが、曾我部夫妻のお墓は太平洋に面しているよし。現在のホノムの人口は600人、うち日系人は100人、20%を切る。曾我部夫妻が創設の育英基金は今も続いている。また曾我部牧師の薫陶を受けた日系子弟の幾人かが第442部隊で活躍した。

同教会のホームページ、「伝統」欄には曾我部牧師受洗の教会としての今治教会、また同志社大学教会が、曾我部牧師の母校の教会であり、アメリカ資金で建設された日本最初の教会であると特記している。

